

# 五十五万石

近畿税理士会和歌山支部

発行

和歌山市湊通丁北1丁目1-3  
TEL.426-3600 FAX.424-1474



「新和歌浦の日の出」

## 目次

年頭ごあいさつ.....	2	介護保険と本の出版.....	8
新年のごあいさつ.....	2	年男になって考えること.....	9
自由業にも定年があつてよい?.....	3	宇治を尋ねて.....	9
老いを生きる.....	4	地磁気と歳差.....	11
ふるさとの山河.....	4	支部行事風景.....	11
干支の起源と未年.....	5	新入会員等紹介.....	12
年男.....	7	会員報告.....	12
おかげさまで.....	8		

## 年頭ごあいさつ

和歌山支部長

米田 弘



あけましておめでとうございます。

支部会員の先生方には、お健やかに2003年の新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

21世紀も早や3回目の新年となりました。平素は支部会務の運営につきまして、種々ご理解とご協力を賜わり心から厚くお礼申し上げます。旧年4月1日施行の改正税理士法も支障なく運用出来ましたことは、皆様のご協力のお陰と支部執行部として深く感謝しております。

さて、去年は馬の嘶きにも似て、大きく飛躍できる年と期待して迎えた午年でありましたが、不景気風は吹き止まず、かえって日経平均株価の8千円台前半までの落ち込み等による大手金融機関の国有化も噂されるようになり、ペイオフ解禁も延期せざるを得ない不況のまま迎えたこの未年は、映画「千と千尋の神隠し」「ハリーポッターと賢者の石」のような大ヒットとならなくても、羊毛の暖かさをもって、緩やかでもいいから景気が回復して欲しいものです。

新年からは例年のごとく、地区納税相談や年金者申告相談、譲渡申告相談等の実施を含め、税務援助対策事業や税務指導対策事業等々で、支部会員先生方には、種々お力添えを賜わらねばならない税繁期がやって参ります。2年目を迎えた申告書様式の改正等、大変とは存じますが、税理士法に基づく税理士による無償独占制度を維持する為にも、是非、ご支援、ご協力をお願いする次第であります。

税繁期が終わりますと、4月から改正税理士法が施行2年目を迎えます。書面添付制度は徐々に取り入れられているように見受けられます。その他の改正については、まだまだ税理士業界への影響は目に見えていませんが、規制緩和等の影響は、

本年から少しずつ表れるものと思われまます。また、公認会計士5万人への増員の報道も、税理士業界にとって大きな影響が考えられ、予測のつかない変革の年になるのではないかと考えられます。

どのような変革を迎えようとも、我々は、税理士法第2条に基づく業務を遂行するため、常に研鑽を重ねて、業務の遂行に励んで行きたいものです。

支部としては、今後も本会主催以外の支部独自の研修会を開催し、業務遂行上の糧となるよう会務の運営に努力する所存ですので、支部会員皆さまの一層のご協力をお願いする次第であります。

最後になりましたが、平成15年末年は、支部会員先生方の益々のご健勝とご事業のご繁栄の年となりますよう、お祈り申し上げます。新年のご挨拶と致します。

## 新年のごあいさつ

和歌山税務署長

奥 光 明



新年あけましておめでとうございます。

平成十五年の年頭に当たり、近畿税理士会和歌山支部の諸先生方に謹んで新春のお慶びを申し上げます。

旧年中は、税務行政の円滑な執行に対しまして、深いご理解と多大なるご協力をいただき誠にありがとうございます。紙面をお借りして心から厚くお礼申し上げます。

さて、署務運営では、去年の九月に「国税庁が達成すべき目標に対する実績の評価書」が公表され、この評価結果を今後の事務運営に的確に反映していくこととしています。

これは、行政の透明性・効率性の確保や納税者利便の一層の充実を図り、均一・均質な行政サービスの提供が求められているものであり、本年も引き続き納税者の視点に立った税務行政を進めていく所存であります。

ところで、最近の我が国経済の状況は、景気の低迷感が依然として拭い去れない状況にあり他方では、経済・社会の高度情報化が著しく進展し、電子政府が実現しつつあります。

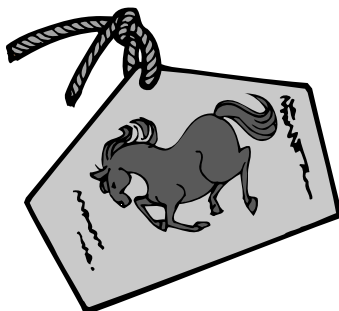
税務行政は、いつの時代においても大変困難なものです。とりわけ現在のように時代が激しく動いているときはなおさらであります。

また、在るべき税制の構築に向けた本格的な議論にも見られますように、国民の税に対する関心はますます高まっており、適正・公平な税務行政が一層求められております。

このような中で、税務行政の運営に当たっては、申告納税制度が円滑に機能するよう「適正・公平な課税の実現」と「期限内収納の確保」を図り、また、経済情勢に即応した署務運営に配意するとともに、新しい目で物事を見つめ、変革の時代を的確に捉えながら、納税者の皆様方から理解と信頼を得ていくことがますます重要であると考えております。

間もなくしますと平成十四年分の確定申告期を迎えることとなります。本年は、所得税申告書新様式により「自書申告」の一層の定着に努めてまいりたいと考えておりますので、近畿税理士会和歌山支部の皆様方におかれましては、税の専門家として、また税務行政の良き理解者として今後ともより一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

終わりに臨み、新しい年が近畿税理士会和歌山支部のますますのご発展と、会員の先生方もとよりご家族ともどものご健勝、ご多幸の年であることを心から祈念いたしまして、新年のごあいさついたします。



## 自由業にも 定年があってよい?

匠 章 夫

12年前に娘達から還暦祝の声のでた時、「冗談いな」と一蹴し、「古希とダブルでやってくれ」と逃げたことを思い出します。しかしです。その頃から私に手にする本に変化が現れ始めたのも事実です。「生きる」「老いる」「癌」「死ぬ」といったジャンルの本が増えました。

放送作家永六輔の「大往生」では、自分のための弔辞を準備しているのに驚いたものです。彼が61才の時の覚悟です。今ひとつ、これ又なんでも作家の邱永漢が「私は77歳で死にたい」を出版したのも10年前、ご本人は1924年台湾生まれ、2001年が満願のところ、ますます豊饒として金儲けの最中。彼が友人から「77才で死ななかつたらどうするか?」とからかわれ、返事に窮して「俳句にも字余りがあるのだから1~2年の誤差は勘弁してくれ」といったそう。いい格好をしてはいけません。

さて、人様のことはともかく、自分自身のライフ・プランをどうするか?が大事となり、あれこれ先人の知恵に習い、いろいろと下手な思案を始めたのが確か65才ころ。以下のような自問自答を試みました。ただし設問のすべてではありません。

お前さんは生涯現役で散れるか?

……………自信がない

お前さんは定年を受け入れるか?

……………そうしたい

クライアントの意向をどうするか?

……………世代交代をすすめる

古参職員の生活への配慮は?

……………資格をとれば任せてもよい  
有資格者との合同を考えないのか?

……………自分が変人だから不可  
お前さんのいう定年は一体いつなのか?

……………理想は75才  
まあこういった具合でした。

「自由業には明確な定年はないが、現実には体力定

年・能力枯渇定年・他律定年（体力、意欲はあるものの諸般の事情から定年を決意する。妻の介護のため、辞職した市長が現にある。）引退定年（引退宣言を伴う、芸能界に失敗例）がある。」——（俵萌子著、人生に定年はない—平成4年版より）——との分類があります。この分類に従えばどの定年を選ぶことになるのか。

ドクターストップがかかって体力定年となる可能性、ボケが高じて能力枯渇定年となる可能性はなきにしもあらずですが、こればかりは誰しもまっぴら御免の筈で、結果が生じての定年ですから選択外。他律定年・引退定年ならばコントロールが可能というものです。ライフプランも経済予測、経営計画・資産運用の世界と同様に「仮定」があって組立てが可能なのですから、知力・体力が現状の俣という仮定で選択すれば、私の場合は他律か引退かのいずれか早い時期としておきます。

生涯現役で通せるのも、定年を拒否できるのも、引退宣言をするもしないも、ボケ老人のまま扶養されるのも、パワフルな後継者の存在が前提となるんでしょうね。そう思います。

私は、定年を目標にして人生の余熱（城山三郎）のある間精進を続けます。

## 老いを生きる

岡田将生

人生五十年と言われた時代から長寿の時代となり、六回目の年男となった。平和な文明社会なればこそ生かされ、生きていけるのである。

この永らい得た寿命を漫然と過すことなく、喜びも悲しみも幾年月と味わいながら残された人生を大切に生きぬきたいと思う。

人に会って名前が思い出せず後になって思い出すド忘れの経験は誰にもあるだろう。これは呆けではない。呆けた人は夜中に「ここは自宅ではない。早く帰ろう」と言って徘徊しようとする。

アメリカの実業家サミュエルウルマンの詩に「青春とは人生のある時期のことでなく、心のあり方をいうのだ。人は歳を重ねるだけで老いるのではない。理想を失う時に老いるのである」と老年期を心豊か

に生きぬくためには理想を失わないことである。

ただ留意しなければならないのは咄嗟の適応力が衰えており、不適応を犯すまいとして悩みやいさかいをもたらすことである。

些やかながら陰徳を積みながら静かな余生を送ろうと心に誓う迎春である。

## ふるさとの山河

木村健而

生まれ育った上神野村を離れて、はや五十年の歳月が過ぎてしまった。両親が健在であった頃は帰る機会も多かったが、最近は墓参りぐらいと少なくなっている。先日、寺を改修する部落集会に出席するよう連絡があつて、久しぶりに晩秋の郷里へ帰ることになりました。在所の人達や幼なじみと会って、四方山の話からもりあがり、子供の頃の話にもなり計らずも七十年の昔を、思い出させてくれることになりました。

昭和一桁世代の記憶は、戦争一辺倒の時代であり、ともに貧困と耐乏そして背信を経験させられた世代でもある。子供の遊びにしても兵隊ごっこチャンバラである。魚や小鳥を捕ることさえ、単なる遊びでなかった。すべて自然を利用し、自然の中で工夫したものであった。いま目にする景色はその頃とはかなり変わったように思われる。

山里の四季は、春野山は花々に彩られ、夏全山新緑に萌え、秋その山は紅葉に映え、冬炭焼く山の煙と田に靱穀の紫煙が棚引く、といった移ろいをみせたが、この頃の四季はくすんでしまっている。山の植栽が落葉樹から針葉樹へ代り、田畑の多くは休耕して葛原と化し、季節の変わり目がはっきりしなくなった。

水を親しむ川の流れも昭和二十八年七月十八日の大水害で完膚無き迄にやられ、揺れるので有名だった吊り橋は、子供の遊び場であり、また山里の風物詩ともなっていたが、その跡形もなく流されてしまった。

見た目の山川の姿が同じに見えても、昔のそれはすべてが生活に密着していて、どんな痩せ地瘦せ山も大事に手入れし、利用されていたから明るく輝いていた。それがいま貨幣価値の有無で判断され、ないものは放置され荒涼たるものになってしまった。過疎化、高令

化ばかりが要因とはいいきれない。なにか暗澹たるものを感じずにはおられない。

# 干支の起源と未年

## 北 一 視

新年おめでとうございます。先生方にはお健やかに平成15年のお正月を迎えられましたことと存じます。昨年12月9日に未年の五十五万石、新年号の投稿の依頼を受け、年月の経過は早いものでいつの間にか6回目の未年を迎えておりました。

そして、先生方は干支についてはご承知と思いますが、干支の起源については、暦の干支の下の欄に九星として、一白、二黒、三碧、……と、数の順に、あるいは、九紫、八白、七赤、……などと、逆順で毎日の日付欄に配されており、これは九の星から成り立っていて、正式には1から9の数字に5行の木、火、土、金、水と、白、黒、碧、緑、黄、赤、紫の色名をそれぞれに配して、一白水星、二黒土星、三碧木星、四緑木星、五黄土星、六白金星、七赤金星、八白土星、九紫火星と、呼ぶことになっており、五帝の一、黄帝の代に大撓という人がいて、天文を占って甲（きのえ）、乙（きのと）以下の十干を、また子（ね）丑（うし）以下の十二支を作りこの組み合わせを六十干支といったと伝えられています。

十干十二支の法則をもとにして、長い年月とともに歩んだ人智の極限が、現在私達の目前に展開する近代文明をもたらしたことは確かと言えましょう。

あるときは野に草が茂り、あるときは木に実がなり、またあるときは虫や動物さえも死に絶えて、表面的に一切の活動を停止させる寒気が襲うというような循環を、私達の遠い先祖は生存本能で感知しました。その後は、月の満ち欠け、星の動きにより、あるいは太陽の動きに時の推移、季節の移り変わりを察知していたのです。

十干十二支も北斗の星を占って得たものだといいます。

望遠鏡もなく、時計もない時代の天文観測で、日蝕、月蝕まで予言した記録も残っています。

自然の摂理、自然の周期を克服した私達の先祖は、

その法則からいろいろなことに解釈を広げていきました。

中国の春秋時代から戦国時代に移るころ、山西省沢州府内に隠棲したと伝えられる縦横家の鬼谷子という人が、この干支・天文の理を応用して考え出したのが、今日まで伝えられた干支学の初めともいわれています。

日本では大陸文化の渡来とともに口伝され、推古天皇の世には、現今に続く干支による暦が発せられています。

暦においてはいうまでもありませんが、東洋の占いは切っても切れないのが、この十干十二支です。では、十干十二支にはどういう意味がこめられているのでしょうか。

まず、十干は甲、乙、丙、丁、戊、己、庚、辛、壬、癸という10の文字で表され、この10の文字には、それぞれの義に、理が付され、これを天干と呼んでいます。干は、幹に通じ、天幹とは、天道の巡り、並びに“気”の質を表わします。

十干の文字と、その義を古文書より述べますと、

甲（きのえ） 万物が甲をやぶって出ずる義

乙（きのと） 万物生じて軋々たる義

丙（ひのえ） 陽道著名の義

丁（ひのと） 万物丁壯の義

戊（つちのえ） 発生發育の義

己（つちのと） 柔順にして隠忍の義

庚（かのえ） 万物あらたに生ずる義

辛（かのと） 万物が成熟する義

壬（みずのえ） 陽気万物を養う義

癸（みずのと） 万物の揆を等しくする義 一と、書かれています。これを陽と陰に区分すると、

陽干=甲 丙 戊 庚 壬

陰干=乙 丁 己 辛 癸 となります。

この十干の読み方を見、その字の義を考えるならば、これが、木・火・土・金・水の五行説の理と表裏一体になっていることがお分かりになると思います。また“きのえ”とは“木の兄”、“きのと”とは“木の弟”を意味し、暦に不可分の“えと”という言葉は、兄と弟から生じたもので、いまこの“えと”を辞書で引いてみますと、干支を指すと出ています。これは、暦を見、方位を考え、運命学を調べる時、十干のえとの法則



に、必ずといっていいくらい十二支が組み合わされているので、二つを総称して“えと”いわれるようになったといえましょう。

次に、十二支の概略を説明しておきます。

十二支が子、丑、寅、卯、辰、巳、午、未、申、酉、戌、亥の十二を指すことはすでに、ご存じのことと思いますが、この十二支のおおのの文字の義は陰陽の消長を示しています。

つまりネ(子)はシで滋のことで、これは万物が滋る芽生えを意味し、ウシ(丑)は紐で、折角芽生えかかったものがまだ縛られて伸びなやむ状態だということです。

また、トラ(寅)は演で、万物が演然(水が広がる状態)と地上に生ずる意味があります。ウ(卯)は茂で万物が茂ること。タツ(辰)は伸で万物が伸びること。ミ(巳)は巳で、万物がすでに頂上を極め、実を結ぶ次期に移ることを意味しています。

そうして以上の6文字は陽気が盛んなことを表わしているのです。

また、次のウマ(午)は忤で下から陽気が上がって交わること。ヒツジ(未)は味で万物が完成して滋味を生じること。サル(申)は身で万物の体が出来ること。トリ(酉)は老と韻(音声の末のひびき)が通じ、イヌ(戌)も脱や滅の韻通で、イ(亥)は核で万物が種子になることを意味し、あわせてすべて陰気が下から起こってくることを表わしています。

これを、ね、うし、とら……というように日本で動物にあてはめたのは、一説には、仏教思想からきたものだといわれています。それはともかく、十二支は月を数えたり、時刻を表わすのに使われたり、時間的な意味や方角を表わすことに用いられます。

十二という数は、木星が黄道を一周するのに、大体12年かかるというところから出たものですが、現今、世界中で通用する太陽暦の1年が12ヶ月、1日が午前と午後各12時間、1時間は5分ずつ12倍で60分という、時間を計る基準にもなっています。また、一点を中心としてそれを一周する角度が、30度の12倍で360度、地球を区分するので東経、西経合わせて360度、あるいは北緯90度、南緯90度を合わせた180度は、これも極点を結ぶ円周が360度になりますが、そのほか1ダース

は12、その12倍の144が1グロス、12インチが1フィートなどと、この12進法によるものは数えきれないほどです。(以上 高島易断神宮館発刊の暦の基本学より)

未年生まれの人性格と運気は、穏健正直で慈善心に富み、信仰心が厚いが、とかく苦労性で涙もろく、気弱で用心深く、ともすれば厭世的になりやすい人がみられます。この性癖を反省して自ら心を引き立てて陽気活発に暮らすなら、生来が篤実温厚だから目上に引き立てられて大成功することがあります。50歳前は苦労が多いが、晩年は安楽な余生を送る人が多い傾向です。平成15年神宮館高島暦(高島易断所本部編纂)

私の生れた昭和6年は、2年前の昭和4年のニューヨーク株式大暴落、世界大恐慌の後で、今でいうデフレで満州事変が勃発、以後日本は軍国主義に進むことになって、第2次世界大戦等、変遷がありました。また、昭和6年には演歌の好きな方はご存知かと思いますが、高橋掬太郎作詞、古賀政男作曲の「酒は涙か溜息か」が流行ったようです。

昨年の11月に桜美会本部の新春の未年の放談会(出席者は未年10名他)がありまして、私も参加してまいりました。

テーマとして

#### 1 私のお正月

(1) 正月の思い出

(2) 印象に残った正月風景等

#### 2 元旦に思うこと

(1) 今年の抱負

(2) 挑戦したいこと

(3) 次世代に語り継ぎたいこと等 でありました。

#### 1 私のお正月

##### (1) 正月の思い出

私は和歌山県有田市の田舎に生れたので、正月の思い出としては小さい頃家族揃って雑煮(白味噌仕立て)の祝膳をいただき、家族の健康を祝い、玄関に日の丸国旗を掲げた後、近くの氏神様に参拝して1年の無事息災を祈願致し、小学校の新年祝賀会に出席し全員で「正月のうた」を合唱しました。子供心に非常に寒く冷たかった記憶があります。

##### (2) 印象に残った正月風景等

小さい頃、私の生家は米作を主とした農家で、裏作として麦を植えており、その麦畑の中で凧揚げをしていて強風に引きずられ、畝の山（高さは30cm位と思いますが、子供の頃は大きい山と思った）を跳び越えながら走った思い出があります。

## 2 元旦に思うこと

### (1) 今年の抱負

平成13年度の日本人の平均余命表によりますと、男子72歳で12.84歳となっておりますが、京都 大仙院の住職 尾関宗寛氏の句

「50-60は花ならつぼみ 70-80が働き盛り 90になって迎えが来たら100まで待てと追い返せ」と、述べておられますので72歳を佳節として夢と正直をモットーに、希望に満ちた生活を送りたいと願っています。

### (2) 挑戦したいこと

#### ①毎日の運動

あるレポートに依りますと、100から自分の年齢を引いた数のウォーキング。例えば80歳なら20分、70歳なら30分、60歳なら40分、50歳50分、速歩で途中休みなく毎日（私は約2,500歩）歩く。但し疲労感が残る様なら1日おきに歩くと良いとあり、毎日30分のウォーキングを目標としたい。

#### ②年4回のゴルフ（なるべくカート使用せず、暑い日寒い日除く）

ゴルフの良い所は知らないうちに歩いてしまうこと。ゴルフ場の広さと人により違いますが、1ラウンド80で廻るシングルプレーヤーは8,000歩位、100を切ったと喜ぶアベレージプレーヤーは10,000歩位、迷惑をかけて120以上で廻る人は15,000～20,000歩位（約8日分）となると思われますので、ゴルフは健康に最適と思われれます。

### (3) 次世代に語り継ぎたいこと等

#### 【1】ある書籍の印象に残った言葉

##### 商売繁昌のことわざ

#### 1 商いは牛の涎……

商売のコツは、牛が涎を少しづつ地に流して、絶えないように、ゆっくり焦らないで、気長にする事が大切であるということ。

#### 2 朝恵比寿に夕大黒……

朝からえびすさんのようにニコニコと、何も不平を言

わずに働いて、商売に精を出していると、自然に繁昌して、夕方には、大黒さんのように福々しい顔になるものということ。

#### 3 朝起きの家には福来る……

朝早くから起きて仕事にはげむと、自ら幸福になる。類語に「朝起きは三文のとく」があります。

#### 4 頭が動けば尾が動く……

何事もまず、主人が先頭に立って働くと、使用人も自然に働くということ。

【2】皆様方御承知と思いますが、徳川家康の人生訓（慶長8年(1603)正月15日)を下記いたします。

#### 人 生 訓

1. 人の一生は重荷を負いて遠き道を行くが如し急ぐべからず。

1. 不自由を常と思えば不足なし。

1. 心に望おこらば困窮したる時を思い出すべし。

1. 堪忍は無事長久の基。

1. 怒は敵と思え。

1. 勝つことばかり知りて敗くことを知らされば害その身に至る。

1. おのれを責めて人を責むるな。

1. 及ばざるは過ぎたるよりまされり。

本年もご厚誼の程よろしく願っています。

# 年 男



## 田 中 康 磨

年男といっても、36歳や48歳は、まだ若いと思うが、60歳ともなると、気分は、若くても、なぜか歳を感じてしまいます。還暦という言葉も、いやな響きがあります。

振り返ってみるに、税理士試験に合格したのが、今から33年前の26歳の時だった。大学を出て、会社に就職し、サラリーマンが性に合わず2年で退社、新聞の広告欄で、会計事務所という職種のあることを知り、この道に入ることとなった。

30歳過ぎ位の頃から、税理士会のお世話をすることになり、まだ仕事も不十分で、事務所の基礎も出来ていないのに、若さのゆえか、のめり込ん

だ時期があった。

その当時は、和歌山県支部があり、その下部組織として部会があった。開業2年目位に、部会の事務局員が田中女史から中井女史に代わったことを覚えている。事務所経営は、しんどい時期であったが、楽しい会の世話ではあった。

昨年、母校の和歌山大学の合気道部の50周年のパーティがあり出席したが、100人を超す出席者には、50年という歴史を感じましたが、なによりもOBの出席で、回りを観て、私が出席者の中で最年長であることに気がつき、自分の歳のいつていることに、いまさらながら驚いた。

今の時代、昔と違い年齢は、昔の人の7掛けから8掛けの歳だと言う。私も、そう思えば、まだ40歳代、赤いチャンチャンコを着ている場合ではない。あと12年で60歳と思い、この仕事でがんばって、大変な不況の時代、関与先企業のために尽くしていきたいと、改めて決意した次第です。

税理士会の皆様、これからも、よろしくご指導、ご教示のほどをお願い申し上げます。

## おかげさまで

岩本 勇

近畿税理士会和歌山支部の皆様、明けましておめでとうございます。

昨年7月、住吉税務署を最後に40年3ヶ月の税界生活に終止符を打ち、当支部に入会させて頂きました。

ある先輩から、「退職後は、今まで自分を見守り育ててくれた社会や、故郷に恩返しをしなさい。それが我々の新しい責任だと思う。そういう意味で君が和歌山に新しい人生のスタートの拠点を設けられたのは、先見の明ありというべきで、誠に喜ばしいことだ。」との激励の言葉を頂戴したのを思い出し、まだまだ頑張らねばと思っております。

さて、5度目の未年、今年の運勢は？

【用心深く、周囲に対する心遣いが過ぎてチャンスを逃がすこともあるが、今年はいろいろな面で自我が強まり、活動力も行動範囲も大きくなって活気のある年になる。

思考の末に意識的に行う的確な判断が将来に向けてのステップアップになり、未来を開くカギとなる。

力まず自意識を表面に出さず、本来の柔軟な姿勢で対応すれば必ずプラスとなる。】

一運勢福寿年鑑より抜粋一

果たして運勢どおりと行きますかどうか。

昨年7月初孫も誕生し、全ての面で私にとって新しい人生のスタートとなります。

「趣味は仕事です。」と言えるようになりたいのですが、せいぜい下手なゴルフでお付き合いさせていただきます。

どうかよろしく願いいたします。

## 介護保険と本の出版

内藤 博 次

介護保険は平成9年に制定され、平成12年4月から実施されました。私は10数年前から医業の経営に関心を持ち勉強をしていた関係上、介護保険についても勉強する必要があると思い平成10年の11月頃より資料を取り寄せ始めましたが、十分に説明されている書籍がなく、あるものといえば当時の厚生省が各都道府県の担当者に対する事務連絡資料ぐらいのものでした。従いまして平成12年から実施されるというのに分らないことが多すぎました。とにかく教えてくれるところもないのです。そこで医業経営に関心のある仲間にも勉強会をやらうと呼びかけ、前述の事務連絡資料の理解に努めたのですが、当初は言葉の意味も分からず大変なことでした。しかしながら何度か勉強会を重ねていく内に、だんだんとその内容が理解できるようになってきました。そのうちにこの勉強会のことを「税理」等の出版社である「ぎょうせい」のほうから、その勉強の成果を出版してみないかという話があり平成11年8月に「介護保険と病院経営」を出版し、平成12年8月にはこの改訂版をも出版させていただくことになりました。まだ介護保険に関する書籍があまり出版されていない時でしたので、おかげさまで専門書としてはかなりの部数が売れました。そのおかげで東京を始めとし、山形、大阪、岡山、広島、福岡、長崎、佐賀等全国各地から講演の依頼が入り、多い月には4~5カ



所も依頼がありました。その後この講演を聴かれた方から、収支と申請の仕方はどうなるのか、そのシュミレーション等した本があればいいのに、という話がありましたのでこの続編として「介護保険と病医院の収支・申請実務」を平成13年1月に前述の「ぎょうせい」から出版することとなりました。しかしこちらのほうはあまりにも会計人向けであったため、あまり一般受けせず売れ行きは悪かったようです。これらの本の原稿の作成につきましては、平日の時間帯は日常の業務があるために時間がとれず土、日の出勤は勿論の事、毎日6時以降の作業となり、とうとう平成13年1月「介護保険と病医院の収支・申請実務」の出版後、十二指腸潰瘍で入院という羽目になりました。今後もう本を出すということも無いと思いますが、もうあまりやりたくない仕事だと思っております。

## 年男になって考えること

湯川直樹

洋の東西を問わず、人類にとって12という数字は重要な意味を持つようである。一年は12ヶ月から成り、一日は24時間であるが、午前と午後はそれぞれ12時間で区分されている。十進法の時代に生きている私は、幼少の頃に、一ダースという単位を知って、何故“12”という中途半端な数字を一つの単位とするのか不思議であった。占星術においても、確か星座は12であったように思う。ご多聞に漏れず、干支も十二支から成る。もしかして、地球の自転・公転の関係から、暦に関しては12という数字が導かれているのかしら、とも思うが、未だに私の中では謎のままである。それはさておき、これまで私にとって、自分の干支というのは、せいぜい年賀状を見たときに自分が年男であることを意識するぐらいで特に重要性を持たなかったのであるが、今回のこの原稿が、干支のもたらす意味合いについて少し考えさせられるきっかけとなった。多くの人々は、元旦に、その年の計画や目標をたてる事であろうと思う。また、多くの人々は、強く意識しなくとも朝、或いは前日の夜に一日の行動計画について漠然と考えるものである。ところが、10年、20年という長い期間について人生目標をたてている人は意外と少

ないのではないのでしょうか。そこで、12年という干支を利用して、自分の人生の展望を考えてみるのも良いのではないかと、ふと、思いついたのである。今まで、長期的な目標を意識することがほとんどなかったのであるが、今年一年かけて、過去の12年を振り返り、そして将来の12年について考えてみたいと思う。話は変わりますが、湾岸戦争が勃発したのが前の末年の時だったそうです。今年も何か起こりそうですが、どうも、米国は末年に奇妙な正義感が沸くようです。それともブッシュ一族？

## 宇治を尋ねて

福井眞八

「ゆく河の流れは絶えずして、しかも、もとの水にあらず。」方丈記の冒頭の言葉はいつも美しい水が豊かに流れている宇治川を思い浮べる。秋も濃くなった晴れた日、一度訪れ度くなった。京阪電車も特急が中書島に停車するようになって便利になった。宇治線に乗り換えて十分余りで宇治終点に到着する。昔はJ.Rの線路を潜っての駅であったが、改装してJ.R線の手前で広い近代駅に変わっている。



▲改装した京阪宇治駅前

駅を出ると一番に目につくのは新しく建て替えた宇治橋である。幅が広く欄干が桧の香りの漂う立派な橋である。

渾水していると表示しているが、矢張り水の流れは豊富である。古い事であるが、鎌倉時代の將軍頼朝の家来、佐々木高綱と梶原景季と木曾義仲討つため攻め上って宇治川での先陣争いで、急流を馬



▲新しい宇治大橋

で競い合い、高綱が勝って名を上げた歴史上有名だが、八百年後も同じ水の流れのようである。橋の中央から上流を眺めると、小高い山は濃緑で川巾一杯の水の流れと、点在する家々も洋風化していない、昔の俣の景色である。この水源は琵琶湖から西欧技術を取り入れて湖の水量調節するべく出口となる瀬田川の南郷洗堰を通り山あいの狭い水路となり廻りくね



▲水量豊かな宇治川

って天ヶ瀬ダムの貯水場へ来るのである。宇治から一キロ上流の天ヶ瀬ダムは宇治川水量の増減出来る関所の役割を演じて久しい。宇治という処は京都の東南方向にあり近いが閑静なる隠居場であった。喜撰法師が、「わが庵は都の巽たつみしかぞすむ世をうじ山と人はいうなり」と百人一首にもあるとおり気楽な居住地であった。だが一番の目玉となるのは十円硬貨の裏に彫刻している宇治平等院で約一千年近く前、時の関白藤原頼通よりみちにより開創されたもので、仏



▲宇治のシンボル平等院

教の殿堂の感がある。中心になる鳳凰堂は左右に廊下で結んだ建物が均整がとれて、中部に阿弥陀如来を始め国宝の仏像多数で極楽浄土を形取ったもので、一對の屋根の鳳凰がそのシンボルである。以前は前にある池が建物の際まで一杯に漲っていたが、改装により砂利の空地とその中央に燈籠が目についた。私には



▲横から眺めた平等院

以前の水の中から浮出た鳳凰の方が霊験があるように思えた。宇治川と平等院が観光の中心であるが、名産の茶でも有名である。平等院へ通ずる舗装された道は茶の店舗で賑っている。参詣者を勧誘するよう



▲茶の香りが豊かな平等院参道

に茶の芳香が至るところに立ち、門前町としては優雅な気持がする。綺麗な水の流れと茶の香り、これが宇治の観光の誇りらしい。東の方角少し離れた処あがたに県神社がある。参拝したが別に印象付けることもないが、この界限の守護神ではあるが、毎年六月五日、県祭りは



▲宇治県神社(暗闇祭りで有名)

暗闇祭りとして有名である。当日全部灯火を消して真暗の中で神事を行う。全国に例が無い

奇祭だから昔から上方落語にも取り入れられて面白い「ねた」になった事もある。近年は古都と云われた京都市さへ京都駅を始め中心部は欧風化して昔のおもかげが無くなりつつある。宇治界限も風致地区の関係もあるだろうが昔の姿を残しているところに安らぎをおぼえる。宇治川の南堤から眺める昔の姿を

その俣の宇治橋、川巾一杯の豊かな清流、間を置いて、ゆっくりとのどかに走る単線のJ.R奈良線の鉄橋の古色蒼然としたローカル色のある風景を見ると、宇治は喜撰法師の詠まれた通りの処だと思った次第です。



▲昔と変わらぬ宇治川畔

# 地磁気と歳差

岡本 繁 男

平成15年の新年おめでとうございます。平成14年1月1日から1年間で地球が太陽の回りを一周したということです。この外地球は1日に1回自転していることは現在誰もよく知っています。地球にはこのような公転と自転のほかに、自転軸の方向に26,000年の周期で回転している歳差運動がある。更に70万年～100万年の周期で地磁気のN極とS極が逆転する地磁気の逆転がある。この地磁気の逆転の原因については現在不明とされている。

私は歳差運動も地磁気の逆転も月の引力によって起こされていると考えている。歳差運動と地磁気の逆転は逆関係にある。

歳差運動2.6万年、地磁気の逆転100万年、月と地球の距離 38.44万km

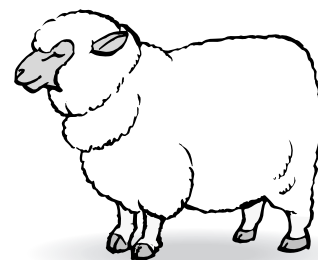
$$2.6\text{万年} \times 38.44 = 100\text{万年}$$

$$100\text{万年} \times \sin(\cos) 45^\circ \approx 70\text{万年}$$

以上のとおり数字的に説明ができる。

未年生まれの方は27名です。  
年代順は

	男性	女性	計
大正8年生	1名	—	1名
昭和6年生	11名	1名	12名
昭和18年生	7名	1名	8名
昭和30年生	4名	1名	5名
昭和42年生	1名	—	1名
計	24名	3名	27名



## 支 部 行 事 風 景



法の日よろず無料相談会 / H14.10.7



税を知る週間無料相談 / H14.11.6



決算説明会 / H14.12.11



年末懇親会 / H14.12.13

## 新入会員等紹介 (敬称略)

### 入 会



カワムラ タカフミ  
川村 尚史  
平成14年8月30日  
和歌山市中之島704  
小山弘事務所内



ニシカワ アキノブ  
西川 明伸  
平成14年10月16日  
和歌山市有本535-3  
西川宏事務所内



イワモト イサム  
岩本 勇  
平成14年8月30日  
和歌山市屋形町4-14-2  
レオヤカタ2階2-B



ウシマ ユキオ  
鵜島 幸夫  
平成14年10月16日  
和歌山市和歌浦東3-2-78 山下ビル203  
鵜島信二事務所内



ツムラ シンゴ  
津村 眞吾  
平成14年9月18日  
和歌山市黒田95-5 辻本ビル2階

### 転 出

テラウラ マサノリ  
寺浦 正周 (粉河) 平成14年10月22日

サカモト タカコ  
阪本 貴子 (姫路) 平成14年10月24日  
(旧姓 奥野)

マツモト ヨシヒロ  
松本 芳 (御坊) 平成14年12月20日



ツジ カズヒロ  
辻 和宏  
平成14年10月16日  
和歌山市久右衛門丁25  
辻勝事務所内

## 会員報告

会員数 平成15年1月1日現在 238名

### ◆◆◆◆◆ 編集後記 ◆◆◆◆◆

永い不況から抜け出すこともなく新年を迎えましたが、今年の干支は十二支の第八の「未」で、羊は毛用・肉用にと品種が多いようであり、我が国が、社会・経済の改革に向けてどのような路を選択するのか、また、国際情勢においてもイラクや北朝鮮の核兵器問題や拉致事件等、私たちが希求する平和に反する事柄が次々と発生しており心配の種が尽きません。

今年の未は、本来の性質である温厚な羊でいるのか、それとも行動的な羊とするのか、内外

情勢の解決に向けての調教が難しいことでしょう。

さて、「五十五万石」第15号が無事に発刊することができました。これもひとえに投稿してくださった大勢の方々のお陰です。ありがとうございました。これからは支部の活動にご支援くださいますようお願いいたします。

本年が皆さま方にとり良い年でありますよう心からお祈り申し上げます。

広報委員 山本 九鬼 竹田